

神津島の火山活動解説資料（令和2年10月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1）

前浜南東監視カメラ（天上山の南西約3km）による観測では、天上山山頂部に噴気は認められません。

・地震や微動の発生状況（図2-①②）

今期間神津島付近を震源とする火山性地震は観測されず、地震活動は低調に経過しています。
火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図2-③~⑥、図3、図4）

GNSS 連続観測及び傾斜計による観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。



図1 神津島 天上山山頂部の状況
(10月24日、前浜南東監視カメラによる)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和2年11月分）は令和2年12月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、東京都及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警戒等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

【計数基準の変遷】

A型地震：2010年10月1日（観測開始）～ 天上山西から半径5km、深さ15km以内
 ※2020年11月10日現在、2020年4月18日から10月23日までの地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前後の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られます。
 BH型地震：2010年8月2日～2013年9月30日 天上山西振幅 $0.8\mu\text{m/s}$ 以上
 2013年10月1日～ 天上山西振幅 $4.0\mu\text{m/s}$ 以上

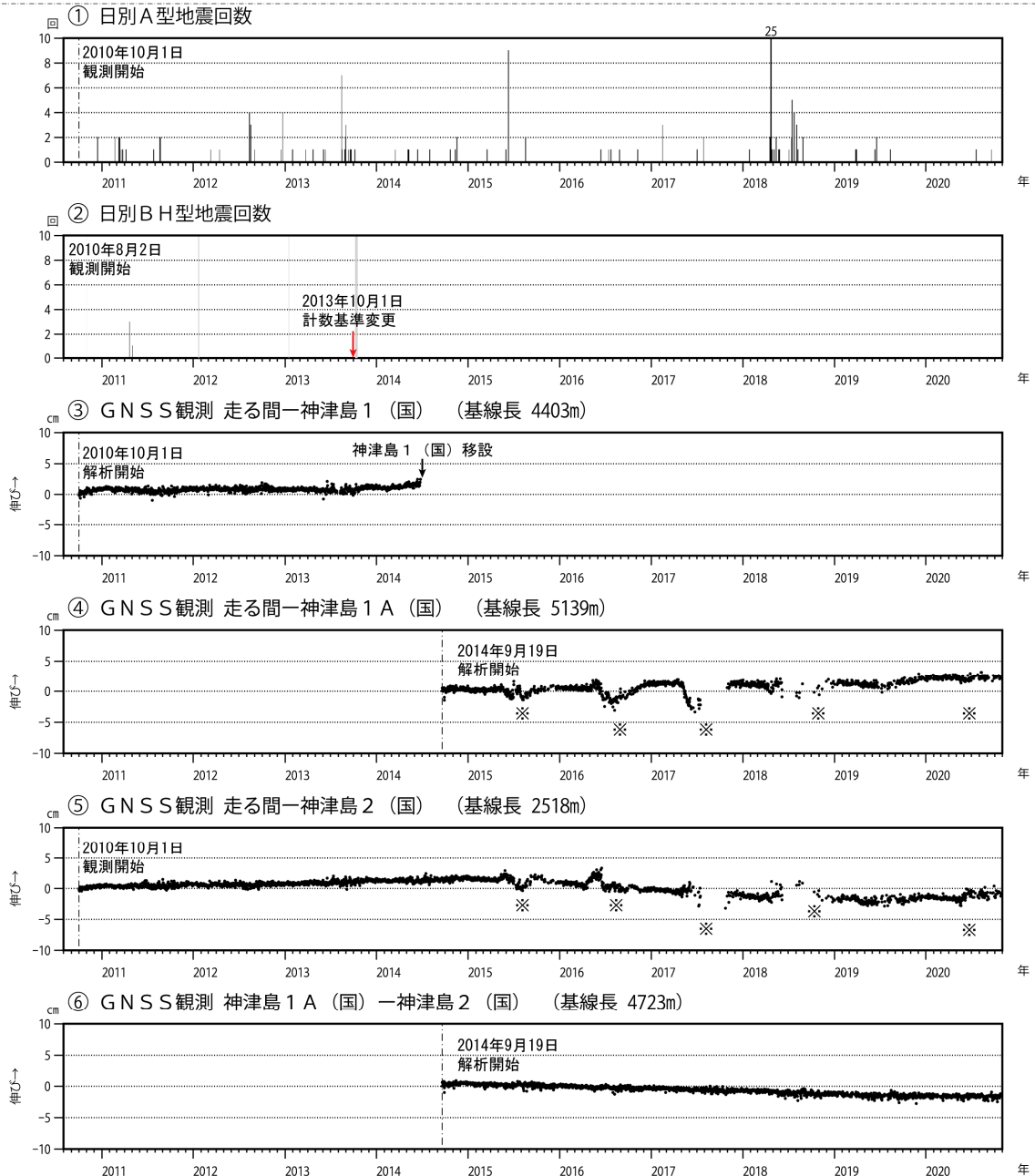


図2 神津島 火山活動経過図(2010年8月2日～2020年10月31日)

①：2020年11月10日現在、2020年4月18日から10月23日までの地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前後の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られます。2020年9月以降は、地震観測点の標高を考慮する等した新手法で求められた震源をもとに計数しています。

②：図の灰色部分は機器障害による欠測を示します。

③～⑥：図4のGNSS基線③～⑥に対応しています。空白部分は欠測を示します。

④⑤：※の部分は、走る間観測点付近の植生による影響です。

2014年9月19日に、神津島1（国）を神津島1A（国）に移設しました。

（国）：国土地理院

・地震活動は低調に経過しています。

・GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

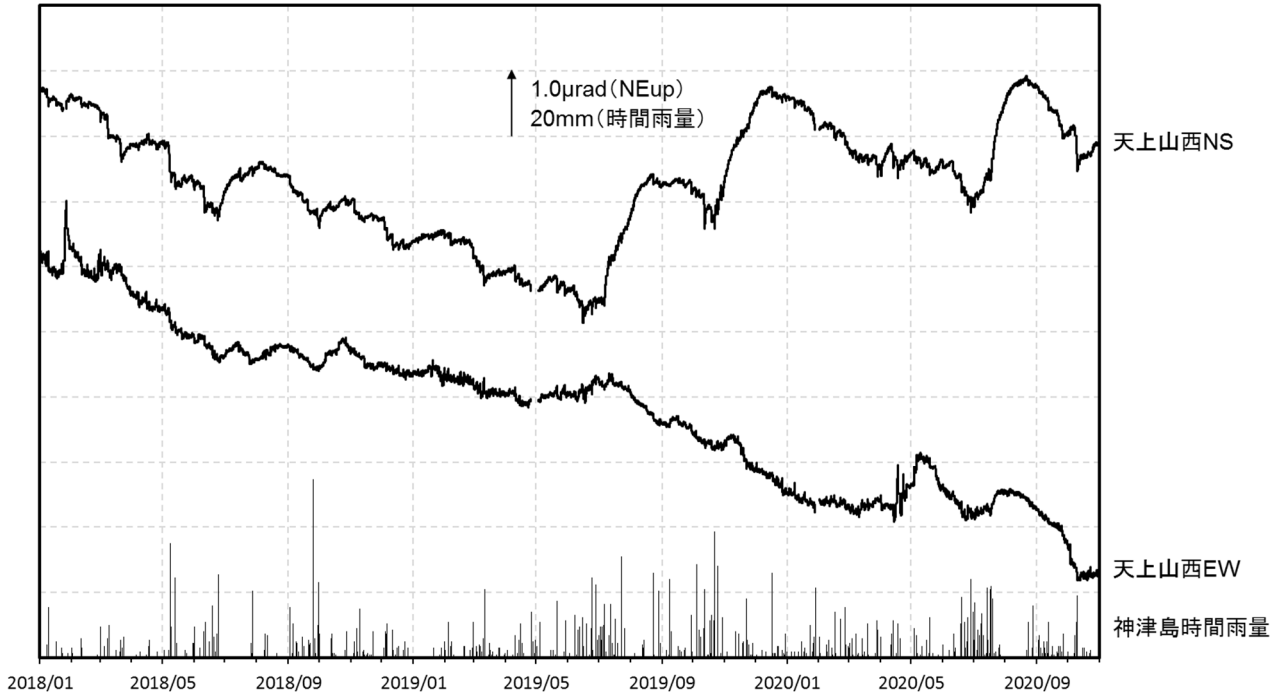
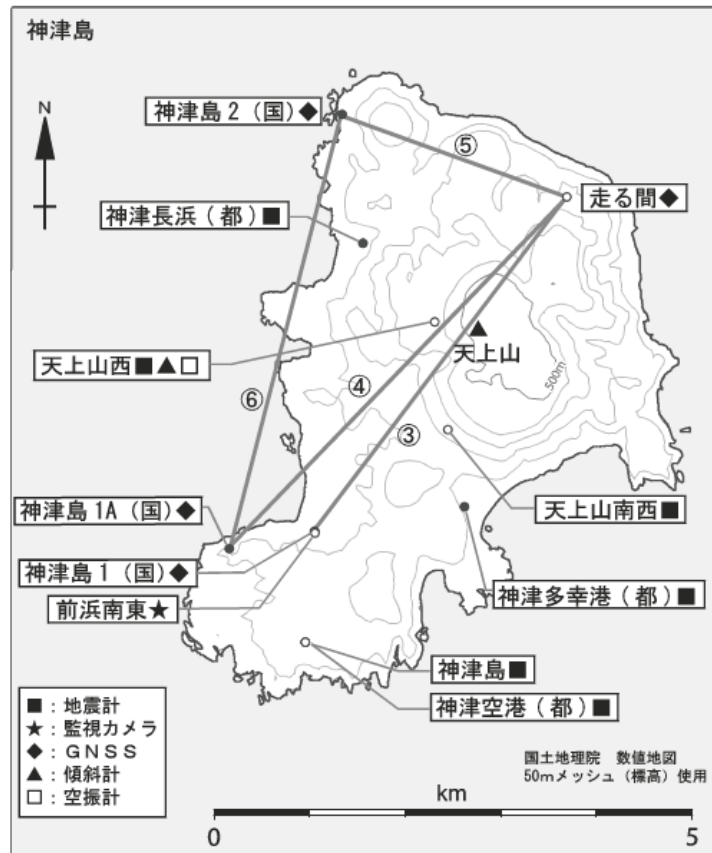


図3 神津島 天上山西観測点の傾斜変動（2018年1月1日～2020年10月31日）
地震等による一部のステップを除去しています。図中の空白部分は欠測を示します。
・火山活動によるとみられる変動は認められません。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院、（都）：東京都

図4 神津島 観測点配置図

GNSS 基線③～⑥は図3の③～⑥に対応しています。
神津島1から神津島1Aに2014年9月19日移設。